

Ⅳ 主な医薬品とその作用

61. かぜ薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a チペピジンヒベンズ酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える。
- b アスピリンは、血液を凝固しにくくさせる作用がある。
- c メキタジンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- d 香蘇散は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

62. 解熱鎮痛薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 専ら小児の解熱に用いる製品として、アスピリンが配合された坐薬がある。
- b イソプロピルアンチピリンは、非ピリン系解熱鎮痛成分として用いられている。
- c アセトアミノフェン、カフェイン、エテンザミドの組み合わせは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。
- d イブプロフェンは、まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

63. 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 脳内におけるヒスタミン刺激を増加させることにより、眠気を促す。
- b 妊婦又は妊娠していると思われる女性でも、使用を避ける必要はない。
- c 慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人を対象としている。
- d 目が覚めたあとも、注意力の低下やめまいを起こすことがあるので、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

64. 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成する性質がある。
- b 小児用の眠気防止薬として、無水カフェインを用いる。
- c チアミン塩化物塩酸塩は、眠気による倦怠感を和らげる補助成分として配合されている。
- d かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を使用するのは適切ではない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

65. 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて、作用が現れるのが遅く、持続時間が長い。
- c ジプロフィリンは、消化管の緊張を低下させることにより、乗物酔いに伴う吐きけを抑える。
- d 乗物酔い防止薬には、吐きけを抑える成分も配合されているため、つわりに伴う吐きけへの対処にも使用される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

66. 小児の疳及び小児鎮静薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳の虫の症状が現れることがある。
- b 小児鎮静薬として使用される漢方処方製剤は、作用が穏やかであるため、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。
- c 小児鎮静薬は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- d カンゾウは、小児の疳を適応症とする生薬製剤には配合できない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

67. 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、中枢神経系に作用して咳を抑える。
- b グアイフェネシンは、気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- c カルボシステインは、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする。
- d トリメトキノール塩酸塩水和物は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

68. 口腔咽喉薬、含嗽薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 駆風解毒湯は、体力に関わらず使用でき、喉が腫れて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。
- b トラネキサム酸は、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として配合されている。
- c デカリニウム塩化物は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促すことを目的として配合されている。
- d バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の診断を受けた人では、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬を使用する前に、その使用の適否について、治療を行っている医師等に相談するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

69. 胃の薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 消化薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- b 合成ヒドロタルサイトは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されている。
- c ソファルコンは、胃粘膜を保護し、荒れた胃粘膜の修復を促すことを期待して配合されている。
- d ロートエキスは、過剰な胃液の分泌を抑えることを期待して配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

70. 腸の薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 整腸薬、瀉下薬では、医薬部外品として製造販売されている製品はない。
- b トリメブチンマレイン酸塩は、消化管の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされる。
- c 大黃牡丹皮湯は、胃腸が弱く下痢しやすい人に適している。
- d 麻子仁丸は、構成生薬としてダイオウを含む。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

71. 止瀉薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a タンニン酸ベルベリンは、収斂作用と抗菌作用を併せ持つ。
- b 沈降炭酸カルシウムは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として配合されている。
- c ビスマスを含む成分は、収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされるため、細菌性の下痢や食中毒のときに使用するとよい。
- d ロペラミド塩酸塩は、中枢神経系を抑制する作用があり、副作用としてめまいや眠気が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

72. 瀉下薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ヒマシ油は、妊婦や3歳未満の乳幼児では使用を避けることとされている。
- b 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を下げることで糞便中の水分量を増やす。
- c ダイオウは、授乳中の女性が服用すると、吸収された成分の一部が乳汁中に移行し、乳児に下痢を生じさせるおそれがある。
- d センノシドは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

73. 胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。
- b ブチルスコポラミン臭化物は、口渇、便秘、排尿困難等の副作用が現れることがある。
- c パパペリン塩酸塩は、中枢神経に働いて、主に胃液分泌を抑える。
- d チキジウム臭化物は、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	正

74. 浣腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 炭酸水素ナトリウムは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して配合されている。
- b グリセリンが配合された浣腸薬は、直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用すると、腎不全を起こすおそれがある。
- c ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 注入剤の薬液を注入した後すぐに排便を試みると、薬液のみが排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	正

75. 寄生虫、駆虫薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 回虫や蟯虫の感染は、その感染経路から、通常、衣食を共にする家族全員にその可能性がある。
- b 回虫は、肛門から這い出してその周囲に産卵するため、肛門部の痒みやそれに伴う不眠、神経症を引き起こすことがある。
- c 駆虫薬は、腸管内に生息する虫体のほか、虫卵にも作用する。
- d ピペラジンリン酸塩は、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

76. 次の強心薬の配合成分のうち、**有効域が比較的狭い成分であり、1日用量として5mgを超えて含有する医薬品が、劇薬に指定されているもの**を1つ選びなさい。

- 1 ジャコウ
- 2 ゴオウ
- 3 ロクジョウ
- 4 ユウタン
- 5 センソ

77. コレステロール及び高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a コレステロールは、水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。
- b 脂質異常症とは、低密度リポタンパク質（LDL）が140mg/dL以上、高密度リポタンパク質（HDL）が40mg/dL未満、中性脂肪が150mg/dL以上のすべてを満たす状態をいう。
- c 高コレステロール改善薬は、結果的に生活習慣病の予防につながるものであるが、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの痩身効果を目的とする医薬品ではない。
- d リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合、使用を中止する必要がある。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

78. 貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 貧血は、その原因によりビタミン欠乏性貧血、鉄欠乏性貧血等に分類されるが、鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- b 鉄分の吸収は、空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- c 鉄欠乏性貧血を予防するため、貧血の症状がみられる以前から予防的に鉄製剤を使用することが適当である。
- d 葉酸は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として配合されている。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

79. 循環器用薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- b ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- c 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

80. 痔の薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品は、肛門部又は直腸内に適用する外用薬のみとなっている。
- b クロタミトンは、局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、配合されている。
- c カイカクは、主に麻酔作用を期待して用いられる。
- d 乙字湯は、体力中等度以上で大便がかたく、便秘傾向のあるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 (a、b) | 2 (a、c) | 3 (b、d) | 4 (c、d) |
|---------|---------|---------|---------|

81. 次の記述に当てはまる漢方処方製剤として、**最も適切なもの**を1つ選びなさい。

体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

- 1 牛車腎気丸
- 2 八味地黄丸
- 3 六味丸
- 4 猪苓湯
- 5 竜胆瀉肝湯

82. 婦人薬及びその適用対象となる体質・症状に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 月経の約10～3日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状や感情の不安定、抑うつなどの精神症状を主体とするものを、月経前症候群という。
- b 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では、エストラジオールを含有する医薬品の使用を避ける必要がある。
- c 加味逍遙散は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、腸間膜静脈硬化症を生じることがあり、構成生薬としてカンゾウを含む。
- d 桃核承気湯は、妊婦又は妊娠していると思われる女性、授乳婦における使用に関して留意する必要がある、構成生薬としてマオウを含む。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

83. 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）の配合成分とその配合目的の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

<配合成分>		<配合目的>	
a	メチルエフェドリン塩酸塩	—	ヒスタミンの働きを抑える
b	グリチルリチン酸二カリウム	—	抗炎症作用により、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげる
c	クレマスチンフマル酸塩	—	交感神経系を刺激して、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる
d	ヨウ化イソプロパミド	—	副交感神経系の働きを抑えて、鼻汁分泌やくしゃみを抑える

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

84. 鼻炎及び鼻炎用点鼻薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アレルギー性鼻炎は、鼻腔内に付着したウイルスや細菌が原因となって生じる鼻粘膜の炎症で、かぜの随伴症状として現れることが多い。
- b リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として配合されている。
- c ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
- d ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

85. 眼科用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れやコンタクトレンズ装着時の不快感等には用いられない。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合されている。
- c ホウ酸は、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜囊の洗浄・消毒に用いられる。
- d 一般的に、点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊の容積より少ない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

86. きず口等の殺菌消毒薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a オキシドール（過酸化水素水）は、組織への浸透性が低く、刺激性がない。
- b ヨードチンキは、化膿している部位に使用された場合、かえって症状を悪化させるおそれがある。
- c エタノール（消毒用エタノール）は、皮膚刺激性が強いため、患部表面を軽く清拭するにとどめ、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することは避けるべきとされている。
- d レゾルシンは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿を防ぐことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

87. 外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 打撲や捻挫の急性の腫れに対しては、温感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適すとされる。
- b 皮下の知覚神経に麻痺を起こさせる成分として、アンモニアが主に虫さされによる痒みに用いられるが、皮膚刺激性が強いため、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- c デキサメタゾンとは、分子内にステロイド骨格を持たず、抗炎症作用を示す非ステロイド性抗炎症成分である。
- d ケトプロフェンは、医療用医薬品の有効成分であるフェノフィブラートを含む脂質異常症用薬（内服）でアレルギー症状を起こしたことがある人に対して、使用を避けることとされている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

88. 次の記述は、にきびと吹き出物の治療に関するものである。()にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。なお、同じ記号の()には同じ字句が入る。

にきび、吹き出物は、最も一般的に生じる(a)である。その発生要因の一つとして、老廃物がつまった毛穴の中で(b)であるアクネ菌が繁殖することが挙げられる。

(c)は、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示すことで、(a)の治療に使用される。

	a	b	c
1	化膿性皮膚疾患	皮膚常在菌	クロラムフェニコール
2	化膿性皮膚疾患	皮膚常在菌	スルファジアジン
3	表在性真菌感染症	皮膚糸状菌	スルファジアジン
4	表在性真菌感染症	皮膚常在菌	クロラムフェニコール
5	化膿性皮膚疾患	皮膚糸状菌	スルファジアジン

89. 毛髪用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 毛髪用薬のうち、配合成分やその分量等にかんがみて人体に対する作用が緩和なものについては、医薬部外品（育毛剤、養毛剤）として製造販売されている。
- b カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）において、抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して配合されている。
- c チクセツニンジンンは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して配合されている。
- d カシュウは、抗菌、抗炎症などの作用を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

90. 歯痛・歯槽膿漏及び歯痛薬の配合成分に関する記述について、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 歯痛は、多くの場合、歯の齲蝕とそれに伴う歯髄炎によって起こる。
- b 歯痛薬は、歯の齲蝕による歯痛を応急的に鎮め、歯の齲蝕を修復する医薬品である。
- c 歯周炎（歯槽膿漏）は、歯肉炎が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がることによって起こる。
- d セチルピリジニウム塩化物は、齲蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

91. 禁煙補助剤に関する記述について、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 咀嚼剤は、噛むことで放出されたニコチンが胃粘膜から吸収されて循環血液中に移行することを目的としている。
- b 咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が促進されるため、炭酸飲料を摂取した後はしばらく使用を避ける。
- c ニコチン離脱症状を軽減しながら、徐々に禁煙補助剤の使用量を減らしていくこととし、初めから無理に減らそうとしないほうが、結果的に禁煙達成につながる。
- d 重い心臓病等の基礎疾患がある人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

92. ビタミン主薬製剤に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ビタミンA主薬製剤は、肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和に用いられる。
- b ビタミンB₂主薬製剤は、口角炎、口唇炎、口内炎、皮膚炎、にきびなどの症状の緩和に用いられる。
- c ビタミンC主薬製剤は、しみ、そばかす、日焼けによる色素沈着の症状の緩和、歯ぐきからの出血の予防に用いられる。
- d ビタミンE主薬製剤は、骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

93. 滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ビオチンは、皮膚や粘膜などの機能を維持することを助ける栄養素として配合されている。
- b グルクロノラクトンは、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して配合されている。
- c タウリンは、肝臓機能を改善する働きがあるとされる。
- d 十全大補湯は、体力虚弱なものの病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

94. 漢方処方製剤に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 患者の「証」に合った漢方処方が選択されれば、効果が期待でき、重篤な副作用が起こることはない。
- c 漢方の病態認識には、虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。
- d 漢方処方製剤の多くは、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤等に加工して市販されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

95. 次の記述は、生薬に関するものである。該当する生薬として、**正しいもの**を1つ選びなさい。

サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

- 1 サイコ
- 2 ボウフウ
- 3 ショウマ
- 4 ブクリョウ
- 5 レンギョウ

96. 消毒薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬のうち、配合成分やその濃度等があらかじめ定められた範囲内である製品については、医薬部外品として流通することが認められている。
- b イソプロパノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が弱いため、手指の消毒に適している。
- d 酸性消毒薬が目に入った場合は、アルカリで中和するとよい。

- 1 (a、b)
- 2 (a、c)
- 3 (b、d)
- 4 (c、d)

97. 衛生害虫に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ノミによる保健衛生上の害としては、主に吸血されたときの痒みであるが、ノミは、元来、ペスト等の病原細菌を媒介する衛生害虫である。
- b 蚊（アカイエカ、シナハマダラカ等）は、吸血によって皮膚に発疹や痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。
- c ハエの幼虫（ウジ）は、人の体内や皮膚などに潜り込み、組織や体液や消化器官内の消化物を食べて直接的な健康被害を与えることがある。
- d ゴキブリは、日本紅斑熱や発疹チフス等の病原細菌であるリケッチアを媒介する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

98. 殺虫剤等の配合成分とその分類の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

<配合成分>		<分類>	
1	ピリプロキシフェン	—	ピレスロイド系殺虫成分
2	オルトジクロロベンゼン	—	忌避成分
3	フタルスリン	—	有機塩素系殺虫成分
4	プロポクスル	—	オキサジアゾール系殺虫成分
5	プロペタンホス	—	有機リン系殺虫成分

99. 一般用検査薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般の生活者が、正しく用いて原因疾患を把握し、一般用医薬品による速やかな治療につなげることを目的として用いられる。
- b 薬局や店舗販売業において取り扱うことが認められている。
- c 対象とする生体物質を特異的に検出するように設計されている。
- d 検出反応が起こるための最低限の濃度を、検出感度（又は検出限界）という。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	正

100. 尿糖・尿タンパク検査に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 尿中のタンパク値に異常を生じる要因に、尿路結石や腎炎などがある。
- b 尿糖・尿タンパク同時検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とするが、尿糖が検出された場合には、食後の尿について改めて検査して判断する必要がある。
- c 尿糖又は尿タンパクを検出する部分を、長い間尿に浸すことで、正確な検査結果が得られる。
- d 食事その他の影響で、尿が中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

V 医薬品の適正使用と安全対策

101. 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 「相談すること」の項目に「妊娠又は妊娠していると思われる人」と記載されている医薬品は、ヒトにおける具体的な悪影響が判明しているものに限定されている。
- b 販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載が省略されることがある。
- c 添付文書は、開封時に一度目を通されれば十分であり、保管する必要はない。
- d 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、年に1回定期的に改訂がなされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	正	正

102. 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用検査薬では、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。
- b 「してはいけないこと」の項には、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。
- c 一般用医薬品の添加物として配合されている成分は、医薬品医療機器等法の定めではなく、製薬企業界の自主申し合わせに基づいて記載されている。
- d 薬理作用等から発現が予測される軽微な症状がみられた場合に関する記載として、症状の持続又は増強がみられた場合には、使用を自己判断で中止することなく、専門家に相談する旨が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	誤

103. 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 表示された「使用期限」は、開封後についても品質を保証する期限である。
- b 医薬品によっては、添付文書の形ではなく、「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」の記載を外箱等に行っている場合がある。
- c 購入者によっては、購入後すぐに開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- d 製品には、医薬品医療機器等法で定められた表示事項以外記載してはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

104. 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 配置販売される医薬品の使用期限は、「配置期限」として記載される場合がある。
- b 1回服用量中0.1mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壮を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- c 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後1年間性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	誤

105. 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a カプセル剤は、変質しやすいため、開封後は冷蔵庫内に保管されるのが望ましいとされている。
- b 医薬品を携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- c 散剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- d 点眼薬は、開封後長期間保存すると変質するおそれがあるため、家族間で共用し、できる限り早目に使い切ることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

106. 医薬品医療機器等法第68条の10第2項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述のうち、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 医療用医薬品の副作用による健康被害の発生は報告の対象となるが、一般用医薬品の副作用による健康被害の発生については、報告の対象外である。
- 2 添付文書の使用上の注意に記載されている医薬品の副作用に限り、報告の対象となる。
- 3 副作用が疑われる医薬品の販売に複数の専門家が携わっている場合は、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報を、直接接した専門家1名から報告書が提出されれば十分である。
- 4 薬局開設者、病院、診療所の開設者又は医師、薬剤師その他の医薬関係者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を、施設を所管する都道府県知事に報告しなければならない。

107. 医薬品医療機器等法に規定する副作用情報等の収集に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 製造販売業者等には、その製造販売をし、又は承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生、その使用によるものと疑われる感染症の発生等を知ったときは、その旨を20日以内に厚生労働大臣に報告することが義務づけられている。
- b 製造販売業者には、医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認後一律で5年間、安全性に関する調査及び調査結果の国への報告が求められている。
- c 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- d 登録販売者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。

1 (a、b)

2 (a、c)

3 (b、d)

4 (c、d)

108. 医薬品副作用被害救済制度に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 遺族一時金は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合、遺族の生活の立て直し等を目的として給付されるもので、最高10年間を限度とする。
- b 障害年金は、医薬品の副作用によって一定程度の障害の状態にある18歳以上の人の生活補償等を目的に給付され、請求期限はない。
- c 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であれば、医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度なものについても給付対象となる。
- d 一般用検査薬、殺虫剤による健康被害は、救済制度の対象とならない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

109. 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品が原因とみられる健康被害の救済給付の請求にあたっては、医師の診断書があれば、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書等は不要である。
- b 製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合や、無承認無許可医薬品（いわゆる健康食品として販売されたもののほか、個人輸入により入手された医薬品を含む。）の使用による健康被害について、救済給付した場合は、被害者への給付金相当額を国が加害企業へ求償する。
- c 生物由来製品を適正に使用したにもかかわらず、それを介して生じた感染等による疾病、障害又は死亡について、医療費等の給付を行う制度を生物由来製品感染等被害救済制度という。
- d 都道府県知事が判定した結果に基づいて、医療費、障害年金、遺族年金等の各種給付が行われる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

110. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されている情報のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品等の製品回収に関する情報
- b 医薬品製造販売業許可業者名一覧
- c 医薬品の承認情報
- d 登録販売者名簿

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

111. 医薬品等に係る安全性情報等に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 緊急安全性情報は、A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- b 安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
- c 緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達に限られており、一般用医薬品は対象外である。
- d 安全性速報は、厚生労働省からの命令、指示に基づき作成されるもので、製造販売業者の自主決定に基づき作成されることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	正

112. 次の記述は、一般用医薬品の安全対策に関するものである。() にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。なお、同じ記号の() には同じ字句が入る。

(a) による間質性肺炎については、1991年4月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、(a) と(b) の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、(b) との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。しかし、それ以降も慢性肝炎患者が(a) を使用して間質性肺炎が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省(当時)より関係製薬企業に対して(c) が指示された。

	a	b	c
1	小青竜湯	アミノピリン	医薬品・医療機器等安全性情報の配布
2	小柴胡湯	プソイドエフェドリン塩酸塩	緊急安全性情報の配布
3	小青竜湯	インターフェロン製剤	製品の回収
4	小柴胡湯	アミノピリン	医薬品・医療機器等安全性情報の配布
5	小柴胡湯	インターフェロン製剤	緊急安全性情報の配布

113. 医薬品の適正使用及び薬物乱用防止のための啓発活動に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、啓発活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- b 薬物依存は、違法薬物(麻薬、覚醒剤、大麻等)により生じるものであり、一般用医薬品によって生じることはない。
- c 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するが、社会的な弊害を生じることはない。
- d 要指導医薬品又は一般用医薬品の乱用をきっかけとして、違法な薬物の乱用につながることもあるため、医薬品の適正使用の重要性等に関して、小中学生のうちの啓発が重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

114. 医薬品 P L センターに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を 1 つ選びなさい。

- a 日本製薬団体連合会において、製造物責任法（平成 6 年法律第 8 5 号）の施行と同時に開設された。
- b 医薬品及び医療機器に関する苦情の申立ての相談を受け付けている。
- c 健康被害以外の損害に関する申立ての相談は受け付けていない。
- d 裁判において迅速な解決に導くことを目的としている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

115. 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中の「連用に関する注意」に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を 1 つ選びなさい。

- a 解熱鎮痛薬は、一定期間又は一定回数使用しても症状の改善がみられない場合は、ほかに原因がある可能性があるため、「長期連用しないこと」と記載されている。
- b 浣腸薬は、感受性の低下（いわゆる ” 慣れ ”）が生じて、習慣的に使用される傾向があるため、「連用しないこと」と記載されている。
- c 柴胡桂枝湯は、うっ血性心不全の副作用が現れることがあるため、「症状があるときのみの服用にとどめ、連用しないこと」と記載されている。
- d 駆虫薬は、海外において、長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があるため、「1 週間以上継続して服用しないこと」と記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

116. 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された医薬品は、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、「前立腺肥大による排尿困難の症状がある人」は使用（服用）しないこととされている。
- b センノシドが配合された医薬品は、腸管粘膜への刺激が大きくなり、腸管粘膜に炎症を生じるおそれがあるため、「大量に使用（服用）しないこと」とされている。
- c イブプロフェンが配合された医薬品は、アスピリン喘息を誘発するおそれがあるため、「本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）して喘息を起こしたことがある人」は使用（服用）しないこととされている。
- d ピレンゼピン塩酸塩水和物が配合された医薬品は、眠気を生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

117. 次の成分・薬効群のうち、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、「次の人は使用（服用）しないこと」として、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と**記載されているもの**を1つ選びなさい。

- 1 小柴胡湯が配合されたかぜ薬
- 2 水酸化アルミニウムゲルが配合された胃腸鎮痛鎮痙薬
- 3 ジフェンヒドラミン塩酸塩が配合された内服薬
- 4 ブロモバレリル尿素が配合された解熱鎮痛薬

118. 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、「次の診断を受けた人」と記載される基礎疾患等と主な成分・薬効群等の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

<基礎疾患等>		<主な成分・薬効群等>	
a	糖尿病	—	カフェインを主薬とする眠気防止剤
b	心臓病	—	芍薬甘草湯
c	甲状腺機能障害	—	抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬
d	高血圧	—	プソイドエフェドリン塩酸塩

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

119. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」と記載される基礎疾患等と主な成分・薬効群等の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

<基礎疾患等>		<主な成分・薬効群等>	
a	心臓病	—	スコポラミン臭化水素酸塩水和物
b	腎臓病	—	酸化マグネシウム
c	貧血	—	エテンザミドが配合されたかぜ薬
d	高血圧	—	アスピリン

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

120. 次の一般用医薬品の漢方処方製剤のうち、添付文書の「相談すること」の項目中に「次の症状がある人」として「排尿困難」と**記載されているもの**を1つ選びなさい。

- 1 桂枝湯
- 2 防風通聖散
- 3 小柴胡湯
- 4 十味敗毒湯
- 5 麦門冬湯